

実施結果概要

以下のとおり荘園町自治会で研修会を開催した。

I 日時

平成 29 年 1 月 28 日（土） 19:00～19:15

II 場所

荘園公民館

III 研修参加対象者

荘園町自治会参加者約 35 人

II 研修会の概要

1 「ともに生きる条例について」（説明）（障害福祉課職員）

パンフレットにしたがってともに生きる条例の概要を説明した。

2 「障がいのある人が地域で暮らすために」（障害福祉課職員）

地域で暮らす障がいのある人が増加していくことが想定されるが、見守り支援や緊急時の対応などについては、地域に担ってもらう必要があることについて説明した

（別紙 1 参照）。

3 「アンケート調査」

障がいのある人が地域で暮らすために必要なこと等についてアンケート調査を実施した（調査結果は別紙 2）。

4 「質疑応答」

（質問）

昨年の地震では、避難所がバリアフリー化されていないため障がいのある人が大変苦労した事例を知っている。障がいのある人専用の避難所の設置を検討してはどうか。

（回答）

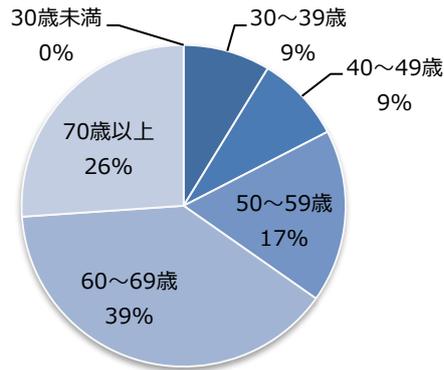
昨年の地震で避難所のあり方などについて課題が多く見つかっている。障がいのある人への対応なども現在検討中である。

平成 28 年度「ともに生きる条例」について理解する研修会（荘園町）

アンケート集計結果

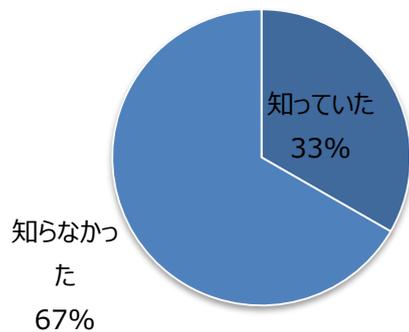
調査実施日 平成 29 年 1 月 28 日（土）、回収数 24

I 年齢



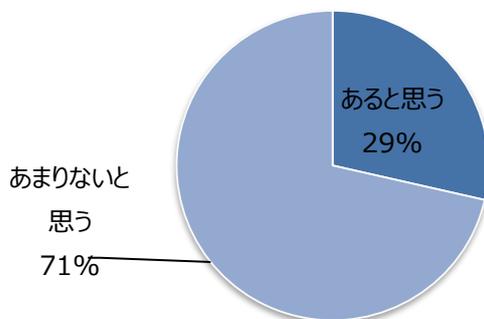
年齢区分	人数
30歳未満	0
30~39歳	2
40~49歳	2
50~59歳	4
60~69歳	9
70歳以上	6
合計	23

II 「ともに生きる条例」をご存知でしたか？



	人数
知っていた	8
知らなかった	16
合計	24

III お住まいの地域では、障がいのある人は地域行事への参加など地域での交流はありますか？



	人数
あると思う	6
あまりないと思う	15
合計	21

【内容】

- ・老人会で交流がある。
- ・一緒に地域の掃除をしています。
- ・夏に合同で盆踊り等して交流しています。

IV 障がいのある人が地域により溶け込んでいくためには、どのようなことが必要だと思いますか？

- ・差別意識をなくすこと。
- ・障がいを良く理解し、あたたかく見守って、手を出してほしい時（求められたら）補助する。
- ・日頃からの声かけを隣同士とする。
- ・周りの声かけが必要だと思います。
- ・第1は挨拶だと思います。
- ・まずは近所との交流から（同じ自治会の組員同士）
- ・地域の人たちを知る機会をつくること、出会う場の提供
- ・会う機会を増やすこと。
- ・健常者や障がい者の区別なしに誰でも参加できる仕組みを考慮する。
- ・地域のイベントに積極的に参加する。
- ・子どものころから障害がある人とともに過ごす時間をつくり、理解を深めることが大切だと思う。

V 障がいのある人が暮らしやすいまちにするためには、どのような配慮が必要だと思いますか？

- ・思いやり
- ・障がいについて知ることだと思います。
- ・障がいのある人から自主的に溶け込んでいくことも必要だと思います。
- ・勉強会（講演会）
- ・障がいのある人と会話を交わし、不自由な点などを聞かせてもらおうと思います。
- ・他人事と思わず、付かず離れずそして遠くから見ていて困ったことはそれなりに声をかける。
- ・まちのバリアフリー化
- ・できうる限り段差のない町づくりが必要だと思います。歩道に障害物がないように、また歩道を広くとったら良いと思います。
- ・歩道が歩道の役目をしていない。狭くて車いすは通れない。段差をなくしてほしい。
- ・条例の浸透。ユニバーサルな環境づくり。
- ・障がいを取り除くため、健常者のバックアップが必要。
- ・地域住民の意識を高めるための勉強会が必要。

VI その他自由意見

- ・障がいのある人は別府においてはとても良い学校があったり、職業についておられるように感じています。
- ・災害時に避難場所は、支援学校などを使わせていただければよいのではと思います。
- ・意見交換の場づくり、障がい者のスポーツ大会なども必要では。